

二〇二〇年一月二五日
印刷
發行



第 103 卷 第 1 号 史学・地理学・考古学

特 集 病

史 学 研 究 会

京都大学大学院文学研究科内

特集 病

特集「病」によせて……………金 澤 周 作 (1)

論 説

日本古代の疫病とマクニール・モデル……………本 庄 総 子 (7)

中世アラビア医学において、実践について
言われたことと言われなかったこと……………法 貴 遊 (41)

古病理学的ストレスマーカーが示す
江戸時代人の健康と男女の格差……………藤 澤 珠 織 (72)

鉛に曝されたところ……………高 林 陽 展 (103)
——近代イギリスにおける鉛製水道管の健康被害をめぐって——

一九二〇年代上海における霍乱流行と中医……………戸 部 健 (144)

ベルリン・ハンプルク・そして「熱帯」……………磯 部 裕 幸 (177)
——ドイツ版「帝国医療」をめぐる考察——

大阪市における消化出血患者の
搬送特性からみた地域グループ……………木 村 義 成 (215)

央部を本拠とするルームのセルジュク朝（一〇七五―一二三〇八）時代には墓碑銘を含む、多くの刻銘文資料が残っており、それらの内容を正確に解読して手稿本資料などと対照することで詳細な局地情報を得ることが可能である。各地のアラビア文字刻銘文資料を十二―二〇世紀の時代状況の変遷を視野に入れながら解読、考察することで、セルジュク朝という時代の特性を際立たせることも出来る。これまでの私の研究成果として、セルジュク朝は十三世紀半ば過ぎまでアッバース朝のハリーフアとの関係を特に重視し、スルターンとシャーハー

ンシャーフ（諸王の王）を称号とし、テュルク系の王朝でありながら刻銘文資料上ではテュルクという語を使用することがなかったことが判明する。刻銘文資料上でルームのセルジュク朝に特有の支配者称号は「ふたつの海のスルターン」であり、この称号は一二一六年以降半世紀にわたって四人のスルターンが使用したもので、これまでのところ刻銘文資料上での使用例を九点確認している。ここで言うふたつの海とは、アナトリアの南北に位置する黒海と地中海を意味し、それまでは海洋への関心が薄か

ったセルジュク朝が海洋への進出を意図するようになったことを示唆する点で、後のオスマーン朝の海上進出へとつながる画期的な表現であったと考えられるのである。

二〇一九年度史学研究会大会・総会の記録

二〇一九年度史学研究会大会・総会は、一月二日（土）午後一時より、京都大学文学部第三講義室において開催された。

総会では、田中和子理事長による挨拶の後、谷口淳一氏を司会に選出して、庶務・編集・会計・後方に関する報告・審議がなされた。

庶務（金澤周作常務理事）からは、役員の交替および会員数の動向、そして『史林』のリポジトリ化の進行について報告があり、加えて、四月一八日（土）午後一時より京大文学部第三講義室を会場として行う来年度の例会テーマを「ジェンダー」とすることが報告された。

編集（上島亨常務理事）からは、『史林』の刊行状況について説明があった。

会計（谷川稷常務理事）からは、二〇一八年度決算および二〇一九年度予算について説明があった。

広報（塩出浩之常務理事）からは、例会・大会のためのポスター作成と、ホームページの管理についての報告があった。

以上の報告はすべて原案通り承認された。大会では、次の二本の講演が行われた。

難波洋三氏

「弥生時代の青銅器の原料金属の流通」

井谷鋼造氏

「アラビア文字刻銘文資料とセルジュク朝史研究」

講演者紹介と司会は、それぞれ吉井秀夫理事と磯貝健一理事がつとめた。講演内容は本号に掲載されているので参照されたい。公開講演ののち、金澤周作理事が閉会の辞を述べて会を終了した。

（文責 金澤周作）

史学研究会会則

（二〇一〇年十一月二日改正）

第一条 本会は史学研究会と称する。

第二条 本会の事務所を京都大学大学院文学研究科内に置く。

第三条 本会は広く歴史に関心を持つ者が集まり、史学・地理学・考古学に関する研究を行うことを目的とする。

第四条 本会の事業は次の通りである。

1. 総会・大会・例会等の会合

2. 会誌『史林』等の発行

第五条 本会に次の役員を置く。

理事長一名、理事一五名以上三五名以内
(内常務理事四名)、監事二名、評議員
四〇名以上六〇名以内、委員若干名

第六条 役員は理事会及び評議員会によって選出され、総会の承認を受けるものとする。理事長は本会を代表し、会務を統括し、会員総会、理事会及び評議員会を招集する。理事は理事会を構成し、会務を処理する。とくに常務理事は、庶務・編集・会計・広報の各事務を担当する。監事は会計経理を監査する。

第七条 委員は理事長より囑託され、編集・庶務の実務を分掌する。

第八条 役員の任期は、委員(任期一年)を除き、二年とする。但し、再任をさまたげない。

第九条 本会は第三条に掲げた目的に賛同する者をもって会員とする。会員は次の二種類とする。

1. 正会員 2. 学生会員

第十条 会員は会誌『史林』の配布を受け、

かつこれに投稿し、また総会に参加することができ。

第十一条 会員は、退会届を事務局に提出し、任意に退会することができる。また、会員が次の各号のいずれかに該当する場合には、退会したものとみなす。

(1) 本人が死亡し、または会員である団体が消滅した時

(2) 会費を三年間納入しない時

第十二条 会員は、所定の会費一年分を前納するものとする。会費の納入を二年分怠った時、雑誌の送付を停止される。さらに一年間会費の納入を行わない場合、会員の資格を喪失する。

第十三条 会員が既に納入した会費は返還しない。ただし一年分を超えて前納している場合には、一年分を超える部分を返還する。

第十四条 毎年秋季に大会を開き、また適宜例会を開く。会場等はその度にこれを定める。

第十五条 毎年秋季において総会を開き、会務の報告を行ない、承認を受ける。

第十六条 本会の経費は会費、事業収入及び寄付金を以て支弁する。会費は誌代を

以てこれにあてる。

第十七条 本会の会計年度は四月に始まり、翌年三月に終わる。

附則 本会則の変更は、会員総会の決議によるものとする。

但し会務執行に必要な細則及び物価変動に基づく会費金額の変更は理事会がこれを行う。

『史林』投稿規定

◇資格 本会会員であること。

◇投稿受付原稿の種類、長さ

論説 一段組五四字×一九行の体裁で、

三二〇〇字以内

研究ノート 二段組二九字×二〇行の

体裁で、二〇〇〇字以内

研究動向 二段組二九字×二〇行の体

裁で、三二〇〇字以内

史料紹介 二段組二九字×二〇行の体

裁で、三二〇〇字以内

書評・論文評 二段組、八〇〇〇字以内

紹介 三段組、一二〇〇字程度

◇原稿の種類を明示すること。

◇いずれにおいても、本文や注だけでなく謝辞や図表・翻刻を含めて、それぞれの

紙幅に収めること。

◇注は各章末に入れること。

◇「欧文タイトル」を添付すること。

◇英文、和文それぞれ五語以内のキーワードを添付すること。

◇論説には「要約」（四〇〇字以内）を添付のこと。「要約」は上記の紙幅制限の対象外とする。

◇論説および研究ノートの投稿者は、掲載が決定した時点で、「欧文要約」（六〇〇～八〇〇語程度）を提出すること。なお、英文要約に限り、翻訳による作成依頼にも応じるが、経費は投稿者負担とする。

◇投稿に際しては、（１）プリントアウト一部もしくはPDFファイル、および（２）電子データを送付する。電子データに関する詳細は下記「補足」の〈電子データ作成要領〉を参照。電子データを準備できない場合は、あらかじめ事務局まで連絡すること。

◇図版を用いる場合は、下記「補足」の〈図版作成要領〉に従って作成、添付すること。

※注意・編集委員会において、印刷技術上、図版の修正や特殊活字の作成を要すると判断し、これを業者に委託した場合には、

その経費の一部、数千円～数万円を負担していただきます。あらかじめご了承ください。

◇原稿の採否は、査読審査を経て編集委員会によって決定される。

送り先・史林編集委員会

〒六八五 一 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科内 史学研究會

『史林』投稿規定「補足」

〈電子データ作成要領〉

・電子データは、フロッピーディスク、CD-R、CD-RW、USBフラッシュメモリなどのメディアに保存して郵送することを原則とする。郵送に不便があるなどの事由で、メールによる投稿を希望する場合は、あらかじめ事務局に問い合わせること。

・本文の電子データは、マイクロソフト・ワード、一太郎、テキストファイルのいずれかの形式で保存し、保存形式（OSおよび使用ソフト）を明示すること。

・図版に電子データを使用する場合には、300dpi以上の解像度とする。ソフト（IllustratorやPhotoshopなど）やページインについて事前に照会・確認をすること。

〈図版作成要領〉

・本文原稿中に図版の割付箇所を注記すること。

・仕上寸法は、最大で170mm×110mm（キャプション込み）とすること。

・図および写真は、仕上寸法の2倍（面積4倍）程度で作成し、希望縮尺率を明記すること。

・図は、トレーシングペーパーや製図用ケント紙などに製図用インキで明瞭に描くこと。その際、線の太さを一定に保つため、製図用ペンを使用することが望ましい。

・図中の文字は写真植字を用いて印刷するので、鉛筆書きするか、上にトレーシングペーパーを重ね該当箇所に文字のみを書き入れること。また、インスタントレタリングやワープロ文字を原図に貼り付ける場合は、仕上段階の鮮明度を配慮すること。

・写真は、原版が十分に鮮明でコントラストが明瞭なものを選ぶこと。なお、巻頭にアート紙で印刷することを希望する場合は、割付・仕上等は編集委員会で調整する。その経費は投稿者負担とする。

・表は、仕上を配慮して、文字数や表現方法を工夫すること。原表の掲載を希望する

場合は、その旨を明記し、図版に準じた体裁を整えること。

※注意 図表に不備がある場合は、投稿者に修正を依頼するか、編集委員会が修正します（経費は投稿者負担となります）。

〈論文等の電子的公開について〉

・著作権法第二十一条、第二十八条に定められた著作権を史学研究会に委譲することに同意するものとする。（第二十一条は複製権、第二十三条は公衆送信権に関するもの。）ただし、著者が論文等を任意のサーバーに機関レポトリ等を使って公表する場合、以下の条件を満たす限りにおいて、本会は著者が委譲した著作権の行使を認め、本会の承諾伺いも不要とする。

イ）『史林』の版面をそのままPDFファイルなどにして公開する場合は、掲載誌刊行後、二年を経過していること。

ロ）論文の出版を明らかにすること。

ハ）営利目的でないこと。

（二〇一九年十一月改定）

編集後記

『史林』第一〇三巻第一号をお届けいたします。

二〇二〇年も早々、新型のコロナウイルスが世界的規模で問題となり、各種メディアで連日報道される状況が続いています。このような日々のニュースをみるにつけ、本特集号のテーマである「病」と私たち人類の関わりは、単に医学の領域にとどまらず、政治、経済、社会的制度、そして、これらを取り巻く様々な権力関係によっても規定された問題であることに私たちは思いをいたします。こうした現実を踏まえると、「病」とは社会の本質を浮き彫りにする存在の一つとして位置づけられるでしょう。

さて、本特集号に寄せられた、時代、地域ともに多岐にわたる計七本の論考は、「病」という問題がいかに人類にとって普遍的であり、各々が対象とする社会に関し、いかに多様な論点を内包しているかを私たちに提示してくれます。このような点を開示することは、まさに人文学がなせる業ではないでしょうか。もしそうだとすれば、本特集号は、「病」をめぐる問題を通

して、社会における人文学の存在意義についても再考を促す契機ともなるはずです。以上のような価値を有する本特集号が、新型コロナウイルスが社会を席巻するただ中に出ることは何かの縁でしょう。本誌が多くの方の目にとまり、各様に考察の機会を提供することを願ってやみません。

（増永理考）

◆史学研究会ホームページ・アドレス

<http://www.shigakukenkuyukai.jp/index.html>

史林

第一〇三巻第一号（通算第五三九号）

二〇二〇年一月二五日印刷
二〇二〇年一月三二日発行

定価二〇〇〇円

京都市左京区吉田本町京都大学大学院文学部研究科内

電話

FAX（〇七五）七五三一・二七八七

発行人

史学研究會

振替京都〇一〇七〇二五一五五番

理事長 田中和子

印刷所

中村印刷株式会社

京都市南区上鳥羽薬田二九

史学研究会例会のお知らせ

下記のとおり、史学研究会例会を開催いたします。多数ご来会くださいますよう、ご案内申し上げます。

日時 二〇二〇年四月一八日（土） 午後一時～六時一五分

場所 京都大学文学部 新館第三講義室

テーマ 「ジェンダー」

プログラム

開会挨拶 史学研究会理事長 田中和子

趣旨説明

第一部（午後一時一五分～三時四〇分）

東村純子 「古代日本の布生産と女性」

鍛冶宏介 「江戸時代祇園における舞妓と遊女の境界線」

前田更子 「戦間期フランスの小学校教師——ダビデにみるジェンダーと信仰」

第二部（午後四時～五時四〇分）

村オリエ 「ジェンダーと郊外——戦後日本における計画空間の誕生とその変容——」

パク・ミギョン 「六〇年代の韓国映画から見る女性幽霊表象」

全体討論（午後五時四〇分～六時一〇分）

閉会の挨拶 京都大学文学研究科歴史文化学系代表 磯貝健一

※例会終了後に、懇親会を予定しております。奮ってご参加ください。

（午後六時三十分～午後八時、参加費一般一〇〇〇円・学生五〇〇円、予約不要）

Special Issue
Disease

KANAZAWA Shusaku, Foreword	(1)
----------------------------------	-------

Articles:

HONJO Fusako, McNeil's Model and Pestilence in Ancient Japan	(7)
HOKI Yu, What Was and Was Not Said about Practice in Medieval Arabic Medicine	(41)
FUJISAWA Shiori, Disparities in the Health of Men and Women in the Edo Period as Seen in a Paleopathological Stress Marker	(72)
TAKABAYASHI Akinobu, Lead Exposure and Mental Illness: Leaden Water Pipes and their Impact on Mental Illness in Nineteenth-century England	(103)
TOBE Ken, Cholera Epidemic and Traditional Chinese Physicians in 1920's Shanghai	(144)
ISOBE Hiroyuki, Berlin, Hamburg und die „Tropen“: Überlegungen zu einer kleinen Geschichte der deutschen „Imperialmedizin“	(177)
KIMURA Yoshinari, Emergency Transportation Characteristics of Patients with Gastrointestinal Bleeding of Areal Groups in Osaka City	(215)

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. CIII No. 1

January 2020

Special Issue
Desease

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(The Society of Historical Research)

Kyoto University, Kyoto, Japan

定価 2,000円

ISSN 0386-9369